

# 日立造船マリンエンジン（株）の事業基盤強化計画（抜粋）

## 企業概要

- 1940年より船用原動機事業を開始し、Everllence社（ドイツ）とWin GD社（スイス）のダブルライセンスとして、国内外の造船会社向けに累計4,450万馬力、約3,100台豊富な製造実績をもつ。
- また、LNG燃料エンジン及びメタノール燃料エンジンの製造実績をもち、カーボンニュートラルに向けた技術開発・製造を推進している。
- 2026年3月、カナデビアが保有する株式の25%が今治造船へ追加譲渡されたことで、今治造船の出資比率が60%となった。これにより、日立造船マリンエンジンは、今治造船の連結子会社となった。



## 計画の概要

- 2050年のカーボンニュートラルに向けた動きを踏まえつつ、今治造船(株)との垂直連携を強化しながら、アンモニア焚きエンジンの開発・生産を推進する。
- また、アンモニア焚きエンジンの燃料供給装置等の生産設備を導入することにより、エンジンの連続生産体制を構築する。
- さらに、カナデビア(株)が有する各種排ガス処理技術を組み合わせた製品の開発を行うことで、環境性能の更なる向上を図る。

<計画実施期間> 2026年4月～2029年3月

<実施場所> 日立造船マリンエンジン株 有明工場（熊本県玉名郡）

